

〈書 評〉

大谷 清（国立療養所村上病院）著

リハビリテーション整形外科学
改訂第3版

渡辺英夫（佐賀医科大学整形外科）

リハビリテーション医学の分野では、最近では脳卒中などの中枢神経疾患のリハビリテーションがフットライトを浴びているようではあるが、理学療法や作業療法の主体は運動器疾患であり、この分野のリハビリテーションでは、整形外科疾患が重要で、その知識が必須であることは言うまでもない。またリハビリテーション学院などでの臨床部門の講義の中では、整形外科は講義時間が最も多いようである。

整形外科の分野は範囲が広く、進歩・発展も著しいので、これらを網羅する教科書となれば、通常は頁数が多く、本の重量も増し、取り扱いにくいものとなるが多い。その点、本書は頁数が約220

頁の手頃な大きさの整形外科の教科書であるが、整形外科の重要な疾患はすべて網羅されており、またそれぞれの疾患の記載は、簡潔に大変要領よくまとめている。

本書にはきれいなイラストやX線写真が多く掲載されており、内容が大変理解しやすくなっている。また専門用語には対応外国語が並べて記載されており、学生の教科書として大変親切である。

著者の大谷 清先生は、脊椎疾患の学識・経験の豊富なことでよく知られているが、脊柱側彎症や椎間板ヘルニアなどの記載はさすがにすばらしい。

また巻末の索引は和文と欧文とに分けられているが、和文混じりの欧文も後者の方に含まれてお

り、使いやすい配慮がなされている。

本書は1979年の初版以来、好評で何回も増刷されているが、1983年の第2版から5年目で今回の改訂となっている。この第3版ではMRIなどの最近の新しい診断技術や、進歩した治療法について、主な改訂がなされている。またこの第3版には、日本整形外科学会が新しく決定したような事柄、例えば日整会腰痛疾患治療成績判定基準や日本整形外科学会頸部脊椎症性脊髄症治療成績判定基準なども掲載されており、up-to-dateな教科書だと言える。

本書はもともと理学療法士や作業療法士の養成校の整形外科テキストとして作られたものと思うが、これらの養成校のみならず、看護学校の整形外科の教科書としても、また今年から全国で3校となった義肢装具士養成校の整形外科教科書としても適当であると思う。

（B5，頁228，図220，写真182，1988，¥4,635 [税込]，

医学書院 刊）